

バリアフリーの家 考える

日福大生が課外授業、成果発信へ

日本福祉大と同大関連会社のエヌ・エフ・ユー、中日新聞LINKEDが、「安心していつまでも暮らせる理想の家」をコンセプトに「Myエデンの園〈創造〉計画プロジェクト」に取り組んでいる。学生たちが家の中に潜む危険と解決方法を考える課外学習で、最終的にはチラシやホームページで発信する。進行役を務めるエヌ・エフ・ユーは「学生の就活や卒論に生かしてもらえたら」と語る。

(高田みのり)

学生は半田キャンパス(半田市)の健康科学部福祉工学科の二〜三年生五人。村井裕樹准教授のゼミで福祉住環境などを学ぶ。今プロジェクトは、同大関連会社で住宅改修などの福祉サービスを行うエヌ・エフ・ユーが、村井准教授に「高齢者の暮らしを知る機会を」と持ち掛け始まった。

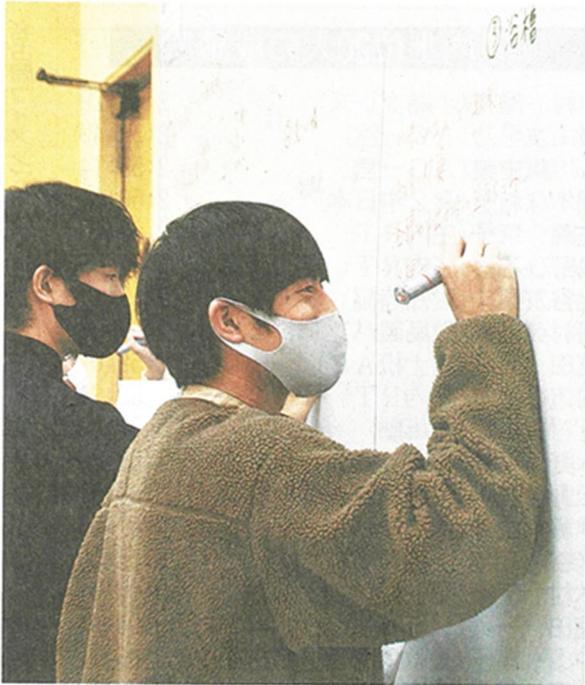
学生らは昨年九月以降、高齢者の感覚を体験できるスーツを着ての住宅展示場見学や、関係分野の講演などに参加。現在は住宅を「玄関」「階段・廊下」など六テーマに分け、潜む危

険と解決方法を考えている。

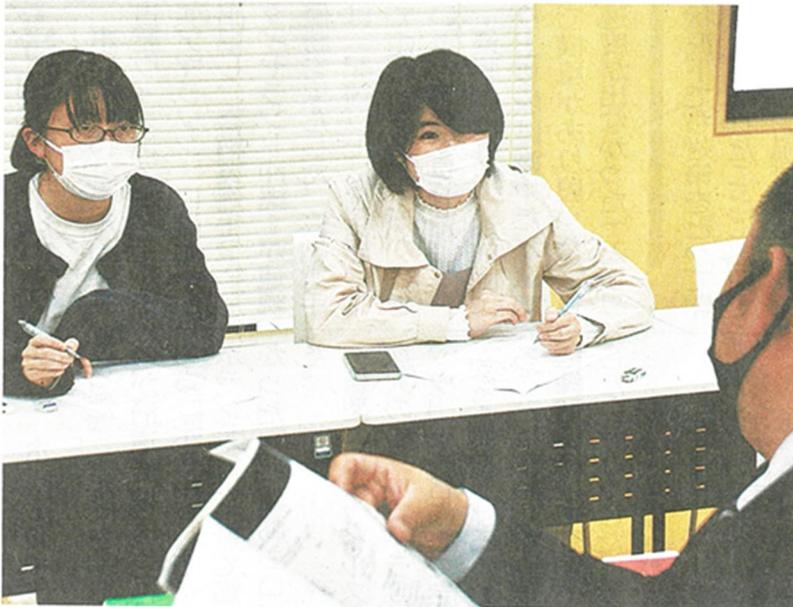
十二日の打ち合わせは「風呂周り」がテーマ。学生らは自身の経験を振り返るなどしながら「とけた入浴剤が浴槽についてニールンと滑る」「浴室の開き戸や折れ戸は不安定」といった意見を出していた。課題に対し具体的な対策を考えた後は、チラシにしてケアマネジャーに配ったり、インターネットサイト「中日

新聞LINKED 地域医療ソーシャルNEWS」で発信したりする。

三年の古本椋太郎さん(三)は「実家に住んでいるが、この学びで『うちにもこんな問題があるな』という気付きが増えた。住宅メーカーに就職して長く住める家を提案するため、この経験を生かせたら」。村井准教授も「バリアフリーは高齢者や障害者だけでなく、全ての人のためのものである。ここで得た生きた知識を、将来役立ててほしい」と願った。



家の中に潜む危険を考え、ホワイトボードに書き出す学生たち=いずれも日本福祉大半田キャンパスで



この日は風呂や脱衣所をテーマに話し合った